

2017年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2018年 4月27日

和光大学地域連携研究センター
センター長 小林 猛 久 殿

代表者氏名 堂前 雅史

研究プロジェクトの名称 町田市内NPOと和光大学の連携に関する創成的研究～「自治」をキーワードとした連携プログラムの探求～（ 2 年目）							
研究目的 本プロジェクトは、自治活動に造詣の深い地域NPOと連携して、自前で自分たちの生活を作り上げる自治の力を、学生たちが必要に応じて発揮したり、それを社会的な活動や仕事に活かしたりできるような、学部教育プログラムの可能性を追求するものである。この目的のもと、2017年度は広義の「自治」的教育プログラムの事例として、自治寮である和光大学の学生寮の寮生の自治活動に注目し、寮生や元寮生への聞き取り調査を行い、実際の「自治」に対する学生のニーズや自治の力のつく過程を明らかにする研究を行った。							
プロジェクト所属メンバー （氏名の右の欄に、本学専任教員＝教、共同研究員＝共と記入してください。）							
長田英史	共	重枝由晃	共	杉本昌昭	教	清原 理	共
堂前雅史	教	岡田 栄	共	杉浦郁子	教	森下 直紀	教

研究活動の経過 （800字以内）（打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。）
【1】 第1回プロジェクト会議 2017年5月10日(水)18:00～20:00 和光大学第三会議室 ・2017年度計画について 主な事業とスケジュールの確認 【2】 第2回プロジェクト会議 2017年6月21日(水)18:00～20:00 和光大学第三会議室 ・学生インタビュー項目の検討。 【3】 第1回学生インタビュー 2017年7月13日(金)(担当者:杉浦、杉本) 【4】 第3回プロジェクト会議 2017年9月20日(水)18:00～20:00 和光大学第三会議室 ・第1回インタビュー報告と暫定的解析 【5】 第2回学生インタビュー 2017年10月5日(金)(担当者:杉本、清原、森下) 【6】 第4回プロジェクト会議 2017年11月15日(水)18:00～20:00 和光大学第三会議室 ・第2回インタビューの報告と暫定的解析 ・3回以後のインタビュー対象者の検討 【7】 第3回学生インタビュー 2018年1月11日(金)(担当者:杉浦、杉本) 【8】 第5回プロジェクト会議 2018年1月17日(水)18:30～20:00 和光大学第三会議室 ・第3回インタビューの報告と暫定的解析 ・第4回以後の対象者の検討 【9】 第4回学生インタビュー 2018年1月19日(土)(担当者:杉浦、森下) 【10】 第5回学生インタビュー 2018年2月23日(土)(担当者:杉浦、堂前) 【11】 第6回学生インタビュー 2018年3月11日(月)(担当者:杉浦、堂前) 【12】 活動報告書の作成 2018年4月

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

2016年度は、自前で自分たちの生活を作り上げる自治の力を、学生たちが必要に応じて発揮したり、それを社会的な活動や仕事に活かしたりできるような、学部教育プログラムの可能性を追求する、という目的のもと、メンバーの1人である長田英史氏の属するNPO「れんげ舎」が培ってきた「場づくり（自治）」の精神や技術を学ぶために開催した『Do It Ourselvesの方法』講座を開催し、講座参加者にアンケートを実施した。2017年度はその成果を踏まえ、問題意識として浮上してきた学生寮、サークル連合、生協、障害者懇談会などにおける学生の自治について現状を正確に把握し、若者における自治のニーズや自治の力の育て方を考えることを目指した。

2017年度のプロジェクトでは、学生コミュニティの自治活動を下支えするためにも、また生活の場を自分たちでつくる力をどのようにして大学教育の中で育てていくことができるか模索する上でも、和光大学学生寮の自治活動が重要な事例であると考え、学生寮の寮生たちの自治活動への参加のあり方や、自治へのニーズについてインタビューを通じて調査した。

インタビューは、「寮に入った経緯」「あなたと寮における自治活動との関係」「意志決定のしくみ」「活動に対する評価」「上部組織（大学・教職員）や学外組織との関係」「今後の活動や課題」などを中心に質問する形で行われた。対象者は6名で、人選に当たっては、できるだけ様々な寮生の事例を探るために、寮自治との関わり方が一様にならないように配慮した。

現在、その取材資料はテープ起こし、本人への確認などの資料化作業の最中で、本格的分析はまだこれからであるが、寮自治活動への参加が積極的な者も消極的な者も、それぞれに寮自治を機能させるための活動を担っており、また自分が関わることの意義を自分なりに考えていることが伺われ、「自治」というものへの多様な関わり方がある可能性が浮上してきた。単に「最近自治が低迷している」という切り捨て方はふさわしくなく、そこに現代人の自治の力につながる教育プログラムの可能性が見いだされつつある。

センターから補助を受ける社会連携研究プロジェクトとしては、いったんここで区切りを迎えるが、町田市内NPOメンバーとの共同研プロジェクトとしては今度も継続するので、引き続き寮生インタビューと結果の解析とを継続して研究結果としてまとめ、自治の力を育てる教育プログラムの提案のための基礎資料づくりを目指す予定である。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2017年4月～2018年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

杉浦郁子,長田英史,杉本昌昭,堂前雅史,清原理,重枝由晃,岡田栄(2017.12)「町田市内NPOと和光大学の連携に関する創成的研究：2016年度和光大学社会連携研究プロジェクト成果報告」『和光経済』50(1), pp.29-42.

- ※ 提出期限=2018年4月27日（金） 提出先=企画室企画係（奥名・岡本）
- ※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。
- ※ できるだけこのデータに入力いただき、e-mailで送信してください。
- ※ kikaku@wako.ac.jp（企画係）